

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年2月22日(火)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年2月22日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【工具管理センターのトルクレンチ定期校正における精度逸脱について】 工具センター貸出工具のうち、トルクレンチの定期校正を行った際、2台の測定値が精度範囲を外れていることを確認。 貸出実績を確認したところ3件あったが、いずれもボルト締め付け時に参考値として確認したものであり、精度逸脱による設備への問題なし。 今後、精度を逸脱したトルクレンチを適正な精度に調整し、再使用予定。</p>	GⅢ	2月16日
2	<p>【排風機フィルタユニットのケーシングの発錆について】 当社社員が、造粒固化体貯槽(D)等水素対策用排風機の定期フィルタ交換のため排風機を停止したところ、フィルタユニットのケーシングの発錆と、発錆箇所付近からケーシング下部のドレン受けに水の滴下を確認。 なお、排風機運転中は、発錆箇所付近からケーシング下部のドレン受けに水の滴下の発生はなく、排風機能に影響なし。 今後、水の滴下した箇所を特定すると共に、発錆について補修予定。</p>	GⅢ	2月17日
3	<p>【増設多核種除去設備(A)クロスフローフィルタ二次側流量調整弁のシート漏えいについて】 当直員が、増設多核種除去設備(A)クロスフローフィルタ二次側流量調整弁が全閉にも関わらず、流量計の値が「ゼロ」ではないため、シート漏えいしていることを確認。 なお、循環待機中は、当該弁の前後弁を全閉することでシート漏えいの影響は無いこと、及び処理運転する際は、前後弁を全開することにより、流量調整は可能であるため、運転機能に影響なし。 今後、当該弁を点検予定。</p>	GⅢ	2月18日